

新精選作家双書

Higuchi Yoshiko
Shirataki-hoichi

東良子

句集 星座星

寒月光

浴び一草も

そよがさる

俳句らしい情景が自然に描かれている。だが、よく味わってゆくと作者の無心の風景だということが解ってくる。かつての「静寂無心」の境地が、宇宙的無辺へと広がって来ていることに気付く。

小澤克己 「序」より

ば
っ
た
飛
ぶ
宙
に
残
り
し
草
の
色

花
の
下
身
を
や
は
ら
か
に
潜
り
け
り

先陣の力漲る花吹雪

インバネス着しオリオンを首座星に

知
は
力
な
り
一
房
の
青
葡
萄

一
穂
に
一
粒
の
露
完
結
す

月代や猫一匹の走り去る

寒月光浴び一草もそよがざる

高く舞ひ来てけふよりは夏の蝶

冬銀河どこにも夫のぬ不思議

師の影を追ふ三月の雲の奥

風待ちの舟のごとしよ白木蓮

オ
リ
オ
ン
の
一
筋
の
道
仰
ぐ
べ
し

身
を
放
下
し
て
大
瀧
の
轟
け
る

冬
天
に
相
思
の
鳶
の
隠
れ
な
し

さ
く
ら
・
桜
・
淡
墨
櫻
咲
き
揃
ふ

白
桔
梗
空
無
に
色
の
あ
り
と
せ
ば

青
鷹
生
涯
群
る
る
こ
と
は
な
し

落人の村蟬声の垣塙なす

峰雲に檜山杉山競ひ合ふ

僚船と仰ぐ湖上の星涼し

一穂に一粒の露完結す

息
入
れ
て
月
に
傾
く
紙
の
鶴

棧
橋
に
船
長
の
立
つ
夕
蜻
蛉

極月の夜空を染むる観覧車

海峡を
行き交ふ船も
年の暮

囀
り
や
百
万
石
の
城
下
町

龍
天
に
登
る
九
頭
龍
川
昏
し

道
行
き
の
灯
り
と
せ
む
か
烏
瓜

鳥
渡
る
夕
べ
我
に
も
翼
欲
し

柿熟るる旧家に婚の荷の届く

降誕のごとき未明の流れ星

秋霖や夜を鳴き過ぐる五位の声

托鉢の笠の内より咳零す

表
鬼門少し離れて寒櫻

薄氷壺中の天を覆ひたる

霜柱
こころに
適ふ詩が
欲し

祖母（東 あい）

年の果て
祖母の遺句
集届きたる

椰子の実の甲板ブラシ南風

やどかりも方向音痴みるらしき

藻刈舟一棹ごとに傾ぎつつ

夫、虚血性心不全にて急逝 五句

たましひの今昇りゆく螢かな

茶毘に付す煙がぬくし遠青嶺

白鷺のかき消ゆるまで見送れり

亡き夫に届く郵便梅雨深し

大花火星の破片となりけり

洗
ひ
た
る
多
佳
子
の
硯
重
た
か
り

師
の
影
を
追
ふ
三
月
の
雲
の
奥

揚
雲
雀
我
が
影
点
と
な
り
み
た
り

著者略歴

東 良子 (ひがし よしこ)

昭和16年 横浜市港北区日吉町生まれ
飯田龍太、大井雅人、橋本美代子に師事
昭和49年 「雲母」入会
平成元年 俳人協会会員
平成2年 句集『化粧廬』上梓
平成4年 「雲母」終刊、「柚」創刊同人
平成6年 句集『へるんやいづ行』（書き下ろし）上梓
平成6年 句集『七夕の湖』上梓
平成17年 「七曜」入会

「七曜」「柚」同人
俳人協会静岡県支部常任幹事
カルチャーセンター小田原講師

句集 ^{しゅぎほし} 首座星

新精選作家双書

2008年1月20日 発行

定 価：本体2900円（税別）

著 者 東 良子

発行者 本阿弥秀雄

発行所 ^{ほんあみ} 本阿弥書店

東京都千代田区猿樂町2-1-8 三恵ビル 〒101-0064

電話 03(3294)7068（代） 振替 00100-5-164430

印刷・製本 日本ハイコム株式会社

© Higashi Yoshiko 2008

ISBN978-4-7768-0432-1 (2194)